

未知との遭遇

亀田一成

今宵は月より
空間の収縮
枝垂桜が
風に揺れ
瞳孔に迫る光
祈りを込める形は
永遠の形を成し
私も何か別の身体を
成していた
あの人のように
瓦には猫がいて
砂塵舞い
沈黙のち
僕は透明な異物で
高周波の呼吸を
発していた
そこからは見えない
何もかも眩しすぎて
僕は美しい吐血物を
地上に放ったんだね